

早稲田大学校友会 東京都 23 区支部

東京 23 区稲門会連合から東京都 23 区支部への軌跡
(1993 年 10 月 ～ 2007 年 3 月)



目 次

支部長挨拶 2006 年度支部長	2	連合 8 代 江東稲門会	8
大田稲門会会長 松本常男	2	支部 初代 目黒稲門会	9
祝辞 早稲田大学総長 白井克彦		2 代 千代田稲門会	
早稲田大学校友会代表幹事 瀬下 明	3	3 代 東京荒川稲門会	10
神奈川県支部 支部長 今井信夫		東京 23 区稲門会連合から	
千葉県支部 支部長 千葉滋胤		東京都 23 区支部の軌跡	11
埼玉県支部 支部長 小嶋隆善	4	区稲門会紹介	
東京三多摩支部 支部長 土方周利		東京都 23 区支部第 1 ブロック	14
東京 23 区稲門会連合誕生秘話	5	足立、荒川、江戸川、葛飾、江東、墨田、台東、中央	
東京 23 区稲門会連合設立のあゆみ		東京都 23 区支部第 2 ブロック	16
連合 初代 渋谷稲門会	6	板橋、北、新宿、千代田、豊島、中野、練馬、文京	
2 代 新宿稲門会		東京都 23 区支部第 3 ブロック	18
3 代 文京稲門会		大田、品川、渋谷、杉並、世田谷、港、目黒	
4 代 豊島稲門会	7	東京都 23 区支部と校友会	20
5 代 江戸川稲門会		早稲田大学校友会規則 (抜粋)	
6 代 世田谷稲門会		東京都 23 区支部会則	22
7 代 北稲門会	8	歴代役員一覧 編集後記	24

支部長挨拶



東京都 23 区支部支部長
松本 常男
(大田稲門会会長)

連合から支部へ 年史発刊にあたって

母校早稲田大学の創立 125 周年の時に「東京都 23 区支部 10 年史」を発刊できますことは誠に喜ばしい限りでございます。これもひとえに 23 区支部結成に捧げてられました、各稲門会の代表者はじめ幹事の方々の並々ならぬご努力の賜と心より感謝申し上げます。

顧みますと、平成 6 年、渋谷、城西、文京の各稲門会の呼びかけで「東京 23 区稲門会連合連絡会」が開催されたのを嚆矢とし、その後平成 8 年 17 稲門会で「連合結成大会」を開き、爾来、年を重ねるごとに拡大され、平成 11 年には大学からの要請もあり、1 区 1 稲門会を結成し、ここに 23 区が勢揃いし今日に到っております。

23 区稲門会は、日頃、会の拡充と相互の情報交換および親睦を図ることはもちろん、支部大会を開催して著名人の講演を聴いたり、毎年 10 月の「稲門祭」で大隈庭園で行う園遊会では、各稲門会が大学の地元として積極的に参加し行事を大いに盛り上げております。

今後は校友会組織の一つとして母校の発展に少しでも寄与できますよう、さらなる活動を続けて参る所存です。

終わりに、今回の発刊に当たり、編集の労をおとり下さいました関係者の皆様に心よりのお礼を申し上げます。



ご 祝 辞



早稲田大学総長・校友会会長
白井 克彦

東京都 23 区支部の 10 周年を心よりお祝い申し上げます。また、松本常男支部長をはじめ、これまで支部の運営に尽力してこられました関係者の皆様に、大学を代表して深く御礼申し上げます。

母校では、2007 年の創立 125 周年を第二の建学と位置付け、21 世紀の早稲田大学の「新しい在り方」を具現化すべく改革を進めてまいりました。

教育面では、少人数ゼミ「テーマカレッジ」や、少人数英会話プログラム「チュートリアル・イングリッシュ」、さらに、産学連携講座やインターンシップ、国内外の大学との共同ゼミや共同授業、各種留学プログラム等、新しい取組みを積極的に展開してきました。これにより、これまでにない知的・人的ネットワークが構築されつつあります。

複雑化、多様化する社会環境にあわせた学部や大学院教育の再編も順調に進んでおります。理工学部・研究科では、急激に変化する社会や産業界からのニーズに対応できる機動性と展開性を発揮するため、従来の学部・大学院の概念を超えた「総合理工系大学」という枠組みを創り、2007 年に 3 つの新学部・研究科へ生まれ変わります。同じく文学部も再編を行い、新たに文化構想学部が誕生いたします。

キャンパス整備も進み、2005 年には正門前に「第二世紀の早稲田」の象徴として、大隈記念タワーを竣工いたしました。15 階には教職員・校友専用レストラン、16 階には校友サロンを設けておりますので、皆様の交流の場として活用していただけるものと期待しております。

早稲田大学は様々な分野で発展を遂げています。その支えとなっているのは、まぎれもなく、日々母校に思いを寄せて下さっている校友の皆様の存在に他なりません。大学は、卒業生と教職員、学生が一体となって力を発揮いたします。世界各地で活躍する 50 万人近い校友の皆様の力が、輝かしい未来に向けて早稲田大学を導く原動力となっているのだと確信しております。

最後になりましたが、10 周年を新たな出発点として、東京都 23 区支部がさらに発展されますことを期待すると共に、皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。また、今後とも母校に熱いまなざしとご支援を賜りますようお願い申し上げます。



早稲田大学校友会
代表幹事
瀬 下 明



神奈川県支部
支部長
今 井 信 夫
(横浜校友会会長)

東京都 23 区支部の皆様におかれましては、ますますご壮健にて各方面でご活躍のことと拝察いたします。また、この度、東京 23 区稲門会連合結成から 10 周年を迎えられましたことは、松本支部長をはじめとする歴代関係各位の弛まぬご尽力の積み重ねによるところであり、深く敬意を表しますとともに、心よりお慶び申し上げます。

さて、早稲田大学校友会全体の歴史を紐解いてみれば、その設立は 1885 年、明治 18 年 12 月 13 日に遡ります。早稲田大学校友会が歩みを始めたその日から今日に至るまで、全国の都道府県支部をはじめとした地域稲門会、そして職域稲門会さらには体育各部、ゼミ、サークル、有志と、様々な稲門会が設立され、現在では、約 1,250 の稲門会がそれぞれに活発な活動を展開しております。

このように校友会活動は各稲門会が独自に進められている活動と、校友会全体で取り組んでいる活動とがございしますが、校友会全体の取り組みとして従来より力を注いでいる活動の 1 つに、準会員である学生支援のための奨学事業があります。毎年 400 名を超える学生に一定額の奨学金を給付することができており、校友会活動の目標として掲げられている、母校早稲田大学を支援するという大切な役割も果たしております。

校友会活動を支えているのは、皆様からお納めいただいている校友会費です。この校友会費をさらに多くの方々にお納めいただき、校友会活動の更なる活性化、母校支援の更なる拡充を図りたいと考えております。貴支部の皆様方にも、引き続き、ご支援、ご協力を賜れば幸甚に存じます。

また、母校早稲田大学はもとより、わが校友会においても 2007 年 10 月 21 日の 125 周年に向けて様々な記念事業を強力に推進しております。是非とも、創立 125 周年記念事業の推進・実行につき強力なご支援をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、東京都 23 区支部の更なるご発展と会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げまして、東京稲門会連合創立 10 周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

このたびは、連合結成 10 周年、まことにめでとうございます。首都圏の校友会活動の機関車役としてのご活躍に、日頃から、深く感謝しています。

神奈川県支部も県下 14 の各支部（厚木、伊勢原、小田原、鎌倉、川崎、相模原、逗葉、茅ヶ崎、秦野、平塚、藤澤、大和、横須賀三浦、横浜）で、おかげさまで活発な活動をしてきています。毎年、各支部持ち回りで、県支部大会を開催していますが、昨年は茅ヶ崎稲門会主管で、寒川神社・参集殿で盛大に開催されました。講演には日本陸連の瀬古利彦氏をお招きし、楽しい話を聞くことができました。今年は、厚木稲門会主管で秋に開催される予定です。

また、最近稲門祭で、大隈庭園内に東京都 23 区支部同様、神奈川県支部テントを復活させ、いっしょに盛り上げることができるようになりました。

母校は今年、創立 125 周年を迎えます。東京都 23 区支部とともに、大いに盛り上げ、お祝いをしたいと考えています。

貴支部のますますのご発展を祈念して、祝辞とさせていただきます。



千葉県支部
支部長
千 葉 滋 胤

10 周年おめでとうございます。同じ首都圏の支部として心よりお祝い申し上げます。

千葉県は人口 6 百万強、在住校友は 3 万 6 千人を超えております。しかし千葉県民の多くはいわゆる“千葉都民”として東京へ通勤する人達です。従って校友の現役世代は、地元千葉県にはあまり関心が無いようです。一方、リタイアした人達にとっては“終いの住み処”として関心をもつようになり、校友会活動にも参加して来るようになってきました。現在千葉県各地に 21 の稲門会がありそれぞれ独自の活動をしています。支部としての行事は毎年 500 人近くの校友が集う千葉県稲門祭（支部大会）、ゴルフ場を借り切って行なわれる親善ゴルフ大会、一昨年から囲碁大会も行われるようになりました。また、ここ数年は、県内の小・中学生を対象とした野球教室、サッカー教室も早稲田フェスタの一環として継続して実施しています。

今後は東京都 23 区支部を中心とした首都圏 5 支部

がお互いに連携し、活動を強化していくことが、校友会の発展に寄与するものと思っています。貴支部のリーダーシップを期待しております。



埼玉県支部
支部長
小嶋 隆 善

早稲田大学校友会東京都23区支部がめでたく連合結成10周年を迎えられました事を心からお慶び申し上げます。

早稲田大学のお膝元であり、活発に活動されている23区の各稲門会が一つの支部として組織されている事は、母校にとっても非常に心強いものと存じます。歴代の会長、支部長の皆様のご尽力に心から敬意を表します。

さて、埼玉県支部は現在22の地区稲門会で構成されています。各地区稲門会はそれぞれの地域事情に合わせた校友会活動を展開し、2006年11月には第20回の支部大会を開催する事ができました。愛する母校の為に、貴支部を手本に更に多くの校友が集える環境を作って参りたいと考えております。

結びに、この10周年という大きな節目を契機に、貴支部並びに傘下各稲門会の益々のご発展と、皆様方のご健勝、ご活躍をご祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



東京三多摩支部
支部長
土方 周 利
(町田稲門会会長)

このたびは東京都23区支部が連合結成以来10周年をお迎えとのこと、心からお喜び申し上げます。校友会最大の支部としてここに至るまでの関係者の並々なご努力が見事に実を結んだことと存じます。

さて、東京三多摩支部は、三多摩地域内26市のうち23市に地区稲門会を擁し、平成15年、東京都23区とともに支部として発足しました。

本部把握の在住校友数は23区の9万3千人に対し3万7千人(いずれも平成17年3月現在)となっており、全国では神奈川の5万9千人に次ぐ三番目の規模であります。参考までに千葉は3万6千人、埼玉は3万4千人となっております。

それ以前は、昭和54年11月当時すでにあった8稲門会が立川市市民会館に集い、立川稲門会が主幹となって初めて三多摩稲門連合会大会が開催されました。

それがこんにちの支部大会の嚆矢となり、以後、毎年持ち回りで各会が主幹となって大会を続け、平成14年まで24回行われました。したがって、連合会大会から通算すると支部大会は実質的に28年続いたこととなります。

一番古いところで八王子早稲田会が昭和3年設立、23番目にあきる野稲門会が平成13年に設立されましたが、羽村市、東大和市、武蔵村山市には残念ながら稲門会はまだ存在していません。

また、125周年記念募金に関しては、支部結成前の平成9年から各会が3万円を拠出し、平成18年で累計680万円に達しております。団体会計からの直接寄付金では全国でも有数の支部ではなかろうかと自負しております。

校友会は一に校友の親睦を図る、二に母校早稲田への支援を行うことを最大の目的としながら、一方で母校に対しては健全で建設的な意見や提案を行っていくことが必要と思われます。それは早稲田大学が何よりも私学であるからだと思います。

末筆ながら、母校の21世紀に向けた世界の大学としての発展を希いつつ、貴支部の今後のご発展ご繁栄を心から祈念申し上げます。



東京23区稲門会連合誕生秘話

早稲田大学評議員・商議員

東京都23区支部顧問

東京23区稲門会連合発起人世話人

信井文夫

私は大学卒業10余年後、渋谷に在住した頃、公・私立の小・中・高校のPTA・商店会の他、町会・法人会・交通安全協会等の会長・理事長・役員等、地域団体の多くの役職が廻って来る羽目になった。

そこで気がついたのが多数の早稲田OB・OGが地域社会で着実に大変活躍している事であった。

調べてみると渋谷には3千有余の校友が存在していた。そこで早稲田の渋谷での組織作りに着手したが、当時コンピュータは普及しておらず、名簿の整理、発送等は全て手作業であったが、幸い前記の会の役員達が協力してくれ、2年弱の準備を経て1982年6月28日、渋谷稲門会の発足に漕ぎ着けた。

1985年、業務の都合で文京区に移転したが、しばらくして、渋谷の経験を活かし文京稲門会の設立を決意、1990年12月4日、第1回設立発起人世話人会を開催する運びとなった。

文京区稲門会が発足したのは、1992年6月18日であったが、設立の過程で気がついたのが、それまでは既存の都内稲門会同士の相互交流がほとんどないことであった。

そこで設立総会に当たって、14の既存都区内稲門会（現在の稲門会とは名称・目的・組織と異なる会もある）に招待状を送ったところ、7稲門会の代表の出席を得た。複数の稲門会が交流するきっかけとなった。

機運が冷めない内にと、都区内稲門会の連合会設立を固く決意し動き始めた。しかし周囲には“時期尚早”と反対の意見もかなりあったが、大学100周年記念募金局長・調査役等を歴任し、早稲田の熱血漢として、校友の畏敬の念を集めていた三木一郎氏から、この結成に熱情溢れる激励を受け勇気付けられ、最初に大学の文字通り地元の城西校友会（現在の新宿稲門会とやや異なり範囲が城西地区全般に亘る）田井努幹事長と、古巣の渋谷の第2代で当時の大原基良会長に非公式に声を掛け何度か会合を持った。事務処理を担当した田井氏は大変苦労された。

また、当時の校友会本部の一部には、大学隣接稲門会不要論の説もあり、余り積極的ではなかった。たまたまその時の校友会代表幹事友田信氏が渋谷区在住で、また仕事の関係で古くからの知己でもあったので、都区内稲門会連合設立の構想の話をしたところ、それが校友会本部に伝わり、また

渋谷大原会長を激励し動きがようやく加速した。

1993年10月24日の校友会当日、校友会本部業務課長佐藤文男氏が呼び掛け人となり、旧大隈会館に16稲門会（前記14稲門会に世田谷・文京が加わる）の代表が集まった。しかし会場の都合で今後、文京、城西、渋谷が主体となって行動する事を確認したのみで解散せざるを得なかった。

そして前記3稲門会に隣接する豊島、都区内でも歴史の古い江戸川両稲門会に連絡を取り、5稲門会で連合会連絡会を1994年6月8日、大隈会館で開催し、ゆるやかな稲門会連合ということで、名称は「23区稲門会」とし、規約も簡単にし、会長も輪番制とし、年度は結成の時期からして7月から翌年6月までとした。ようやく連合会発足のスタートを切ることが出来た。（1992年文京稲門会設立総会で複数稲門会の初顔合わせから2年）

その後、1996年5月17日「東京23区稲門会連合」の名称で正式結成大会（幹事新宿稲門会・会場リーガロイヤルホテル）を漸く開催することが出来た。（正式発起人会開催からまた2年）

ここまでの4年間は、苦難の連続といっても言い過ぎではない。専ら事務処理は田井氏、対外連絡は私が受け持ったが、先ず経済的裏付けが全くない。（渋谷のときは後に同初代会長となる菊池

泰二郎氏が密かに一部を援助してくれた。文京の時は発起人会員全員が予め応分の拠出をした。）

今回は、経費の事を持ち出せば瓦解する恐れがあり、各種会合のみ実費会費制とした。通信・連絡費は皆無、当日連絡も無く欠席する会費分、その他不足分も止む無く私の負担とならざるを得なかった。当時の各稲門会・校友会の組織・目的は各々かなり異なり、組織力も現在ほどでもなく概ね脆弱で、また名称だけでほとんど実体の無い会もあり、全体会の開催も容易ではなく、その後、正式結成大会を開くまで2年を要した訳である。しかし田井氏も私も途中で投げ出す気持は不思議と起きなかった。

当時、田井氏も私も所属稲門会の幹事長であったが、相談の結果、初代会長は現職会長の渋谷の大原氏ということで推薦し正式に承認された。

その他は関係者の稿に委ねるが、歴代の会長・役員諸氏が大変な努力をされ今日に至っていることに、敬意と感謝の誠を奉げる。

何事にも水面下の長い前史があり、艦・船に例えれば7割は海中で、3割が眼中に入るようなもので、敢えて設立当時の真実の裏面を始めて公やけにし、23区支部の発展のための資となることを心から願ひ、校友会が形式的・表面的なことで満足することなく、50万校友の強力な組織となる事を第一義とし、仮り初めにも恣意的な運営がなされるようであれば、将来の発展を望む事は期待できない。

東京23区稲門会連合設立のあゆみ



東京23区稲門会連合
初代会長

大原 基 良
(渋谷稲門会元会長)

思えば校友会の会合の時に、当時の校友会代表幹事友田信さんと校友会の事務局から、「日本全国に稲門会があるのに東京23区だけは本部直轄で台風の目のように穴があいている。校友会としてはこの東京23区もカバーしたい。」という話となり、代表幹事より私に白羽の矢がたち、設立の準備に入りました。当時は稲門会も各区単位という発想はなく、渋谷、城西、文京、豊島、江戸川の5稲門会に設立の賛同を得てスタートしました。

区の単位ではない浅草、銀座の稲門会もあり、区の単位に拡大する事もお願いに行きました。

幸いな事に上記の5稲門会の方々が全面的に協力をして下さり、平成6年6月に代表者会を開き今後の方針、内規の作成等の打合せをしました。そして各稲門会に隣接区の稲門会を作るように働きかけて頂きました。

同年7月26日に東京23区稲門会連合として設立されました。

その後、皆様のご尽力により23区全部に稲門会が成立し、現在確立された東京都23区支部として盛大に活動されている事は、歴代各会長のご尽力の賜物であり、生みの努力をした私にとってはとても嬉しい事です。

尚、この東京都23区支部の設立提案をされた故友田信元代表幹事にお礼を申し上げたく思っています。

東京23区稲門会連合
第二代会長

故 大西 鉄之祐
新宿稲門会
常任幹事
佐藤 文 男

平成6年7月26日新装なった大隈会館で「東京23区稲門会設立の集い」が開催され荒川、城南を除く14稲門会から34名が出席されました。

当時私は校友会本部の業務課長で、大学総務部長兼校友会常任幹事の松本琢司氏と相談の上、16稲門会へ趣旨説明の連絡を致しました。

ここで種々話し合った結果「今後、連合会の形態として、相互に情報交換を行ない、親睦を深めるため緩

やかに懇親会・連絡会の形式で進めよう。未発足の区部に対しても、組織作りに協力、支援をしていこう。大学の事業などにもお互いに連携して援助しよう。」ということで出席者全員の了解が得られました。

今後、運営上、世話人として3区から正・副会長、事務局を選任することとし、任期は一年(7月～翌年6月末)交代で、持ち回りとする事に決定しました。

そして、各区稲門会組織の上にならぬ「屋上屋を架す」ということにならないよう、今後の運営については適宜協議・相談の機会を設け、永続的に活動してゆくことを申し合わせました。平成7年3月の代表者会で5月に連合大会を開催することが決定されましたが、城西校友会会長大西鉄之祐氏の突然の逝去により中止となった事は残念の極みです。

設立の仕掛け人の一人を務めることができた小生は、平成12年5月末に大学を定年退職しましたが、現在も新宿稲門会の役員として、微力ながらお手伝いをさせていただいております。



東京23区稲門会連合
第三代会長

信 井 文 夫
(文京稲門会会長)

1994年6月8日、文京(幹事長信井96年会長)、城西(大西会長ご病気のため専ら田井幹事長)、渋谷(大原会長から65年長谷川会長に交代)そして豊島(小松原会長他)、江戸川(高橋会長他)が加わり、「23区稲門会」がスタートして2年目、1996年5月17日「東京23区稲門会連合」の名称で正式結成大会を、新宿稲門会を幹事とし、リーガロイヤルホテルを会場とし開催したが、それを受けて第2回大会を、1997年6月30日、文京稲門会を幹事とし、同じくリーガロイヤルホテルで開催した。会費1万円で200弱の出席を得て、奥島総長も臨席され、名実共に東京都区部の稲門会連合が始動した。当日は三多摩地区からも来賓を迎え、200弱にしては遥かに熱気に溢れ、多くの方から祝福を受け、私が東京都区部の稲門会設立を決意してから、過ぎ越し方6年間を憶い感無量で涙した。その時の光景と感銘は今でも鮮明に蘇える。そして紆余曲折があろうとも、この大会は必ず毎年開かれるであろうとの確信を得た。

次は1997年8月4日、熱海市の早稲田大学双柿舎で花火見物を兼ねて開催した役員会(この後は役員旅行会は開催されていない)で、次ぎの会長に豊島が指名され、1998年1月の幹事会において23区の全てに稲門会を設立する事が急務と合意された。同時に年度を7～6月から4～3月とし、従って豊島の任期は延長され、その間、遂に念願の23区の全てに稲門会が結成された。

しかし形式が整った反面、従来の地域の有力会員が脱落したのも見落としてはならない。森羅万象には必ず「陽」と「陰」がある如く、陽の面に気を取られ、陰の面の配慮を忘れると運営は成功しない。常に各区の声が真に反映する組織作りに心掛けねばならない。

日本で約5分の1強の校友約10万余を抱える東京23区であるが、残念ながら組織力、行動力、影響力は未だしである。

一応形は整ったので、名実共に日本を代表する校友会支部に成長して欲しい。歴代の会長・役員の活躍を称え、その労をねぎらうと同時に、校友会本部共々思い切った発想の転換が図られる事を請い願う。

23区すべてに設立



東京23区稲門会連合
第四代会長

小松原 和夫
(豊島稲門会 名誉会長)

私の所属する豊島稲門会は、平成2年6月16日に創立総会を行いスタートしました。設立に当っては当時の練馬稲門会会長 故荻野優氏、板橋稲門会会長 故瀬田虎太郎氏、保谷稲門会会長 菅原範人氏を始めとする方々に御指導をいただき、今でも感謝しております。

豊島稲門会は全体的なパワーが非常に高く、その結果、豊島の会長であった私も23区稲門会の設立準備の発起人に加わり、最初のパーティーが平成8年5月にリーガロイヤルホテル東京で行われました。東京23区稲門会連合大会と銘打っても実際には16区程度の集まりでしたが大変盛大で約300人が集まりその内60人以上が豊島稲門会の会員でした。

平成9年8月に東京23区稲門会連合の第4代会長に就任したわけですが三木佑二郎、野崎敬二の両氏に支えられてその任に当りました。本当の意味での23区になることが必要との意識から、稲門会のない区に呼び掛けをしたりお手伝いをしたりと努力しました。これを具体化するため、当時の校友会代表幹事の故中嶋宏氏から豊島稲門会の会長が東京23区稲門会連合の会長の時に名実共に「23区」が完成するようにとの強い要望があり、お引き受けしました。それに伴い会長の任期を延長し、平成11年2月19日にリーガロイヤルホテル東京で東京23区勢揃いの総会を盛大に開く事ができました。

先輩、後輩のお力をいただきながら現在の東京都23区支部の礎を築くことが出来たことを誇りに思っています。



東京23区稲門会連合
第五代会長

高橋 健治
(江戸川稲門会元会長)

平成6年に、都内稲門会のうち、渋谷、江戸川、城西、豊島、文京の各稲門会の代表が集合して、東京23区稲門会を創りあげることを企ててから、はや13年が経過した。この計画に参画された、渋谷の大原会長、新宿の大西会長、文京の信井会長、豊島の小松原会長のお顔が目浮かぶ。

その後、大学の積極的な支援と、各稲門会の情熱的な母校愛とによって、23区の全てに稲門会を設立する計画が進められたのである。

結果は、平成11年11月に、杉並稲門会が多数の参列者の祝福の中で発会式を終えた時点で、23区全てに校旗が翻る事になったのである。

平成6年の発足以来、平成7年からは、東京23区稲門会連合大会が毎年開催されるようになった。

我が江戸川稲門会は平成12年に連合大会のホストを勤める事になった。

前年度が経済問題をテーマにしたパネルディスカッションだったので、我が年度は、「早稲田スポーツの振興」をテーマに、大学から佐藤英善副総長がご出席、講師には野球の谷沢氏、ラグビーの宿沢氏、水泳の山中氏など往年の名選手にパネルトークを演じて頂いて盛会裏にお役を果たす事ができた。

この他、平成7年には、江戸川稲門会創立60年を祝して会報「稲門えどがわ」の60周年記念特別号を発刊し、記念チャリティ行事として、校友ボニージャックス出演のふれあいコンサートを開催、地元葛西区民館ホール500席が満席となるなど、地域とのふれあいにも力を注いできた。



東京23区稲門会連合
第六代会長

土 倉 享一
(世田谷稲門会会長)

薄曇りながら時折秋の日差しが注ぐ大隈庭園に真新しい各区稲門会の幟がはためいた。平成12年10月22日の「第1回東京23区稲門会連合の集い」は、恒例のホームカミングデー・校友会大会に当時の23区連合が積極的に協力する大隈庭園のイベントアトラクションとして立ち上がった。連合会長区が主催してきた従来の大会に代えて、23区が大隈庭園に結集して展開した初めてのイベントは、この年、連合会長の任に当たった世田谷稲門会会長の私にとって貴重な経験であった。

世田谷が担当した銘酒試飲のテントでは紙コップが足りなくなって調達に走り回ったり、下戸の幹事が説

明に窮したりだったが、現在まで続く全国酒造稲門会のご協力があったので成功と感謝している。各区テントも奮闘、庭園に響く太鼓やジャズ演奏が盛り上げ、応援部によるフィナーレで予定の3時間半が終了。

かつてのホームカミングデーに旧・応援部第6代団長だった岳父（昭和8年政経卒・平成4年没）が仲間や家族と大隈庭園に陣取って意気を上げていた姿が思い起こされ、今昔の感慨を覚えたものである。



東京 23 区稲門会連合
第七代会長

飯野 嘉一郎
(北稲門会会長)

我が北稲門会が発足したのは平成6年のことである。初代会長には名取小一氏、2代目会長が横峯忠氏、そして私が3代目会長を受けたのが設立5年目の平成11年7月の定期総会の時だった。

ところが、横峯会長から引継ぎらしき事もせぬうちに、その年の9月横峯会長が急逝されたのである。そして10月、23区稲門会連合の会長および幹事会が出席したところ、「来年度の当番は北稲門会ですのでもよろしく」と告げられた時は、私はいささか戸惑いを感じた次第である。しかし、時の幹事長、志水一夫氏始め周囲の副会長、役員諸氏の暖かい支援を得て何とか連合会長の重任を果たし得たのである。今にして思えば、私の人生の中で忘れ得ぬ貴重な思い出の一頁となっている。

私が第1商学部を卒業したのが昭和26年3月、ずいぶん前の事である。まだ敗戦後の焦土が生々しく残っていた頃である。今日の復興を誰が想像したことだろうか。卒業から56年経った今日に至るまで私は早稲田大学の卒業生である事の誇りと自覚と喜びを一日たりとも忘れた事はない。時代を見る目も、価値観もそれぞれの年代によって違いはあると思う。しかし、時代がどのように変わっても、年齢は違っても、変わらないのは母校早稲田大学の不滅の栄光を祈る気持ではないだろうか。時あたかも建学125年を迎える今日、今や世界に誇る早稲田大学の更なる躍進を祈ってやまない。



東京 23 区稲門会連合
第八代会長

小 泉 宗 孝
(江東稲門会会長)

平成14年4月26日、23区連合会長会で会長に選任され前任の北稲門会飯野会長からバトンタッチを受けました。このとき14年度事業計画が承認され活動がスタートしました。常任幹事8名、4つの分科会（事業、組織、HP、広報）を組織化して稲門祭、奥島総長退任慰労会、各区のホームページ立上げ、23区ニューズレターの発行など下記記録のように推進してきました。

連合会は稲門祭を運営するのがメインと思っていましたが支部格上げという校友会の突然の提案が出されその推進に腐心しました。23区の中で未組織の区がありその問題点解消に幹事会の中では先輩会長やベテラン幹事の皆さんにご協力いただき支部組織化への礎づくりをしてきました。また、23区各区の会長さんとの懇親会を下町江東区で開催し23区各区と横の協力体制を強いものにしました。

東京23区支部は母校の発展成長並びに校友会運営の要と自認しこれからも協力をしていきたいと思えます。

記録（14年4月～15年3月）

- 4月26日 HP分科会が23区HPを開設。2001年大隈庭園のイベント写真等を掲載。
- 6月30日 代表者会会議開催 稲門祭庭園参加を承認
- 7月1日 広報分科会が「ニューズレター1号」発行、この1号で四つの分科会を紹介
- 9月19日 「奥島総長に感謝する会」をリーガロイヤルホテルで開催、230名の校友が参加。併せて125周年記念の募金を贈呈
- 10月7日 ニューズレター第2号発行
(各分科会活動報告等)
- 11月11日 東京23区稲門会会長懇親会を東京平安閣（現アンフェリシオンに改称）で開催。歴代の会長を含め25名出席
- 2月18日 23区代表者会議開催。23区支部会則修正案承認、15年度役員人事承認（次期会長目黒稲門会眞仁田支部長等）
- 2月26日 ニューズレター第3号発行
(会則、会長懇親会報告…)
- 2月28日 事務局業務マニュアル発行
(文書配布基準 その他)
- 3月28日 東京23区支部発足総会

支部誕生



東京 23 区支部
初代支部長
眞 仁 田 勉
(目黒稲門会前会長)



東京都 23 区支部
第二代支部長
手 塚 善 雄
(千代田稲門会会長)

早稲田大学校友会東京 23 区支部は昭和 7 年の江戸川稲門会の設立に始まり平成 11 年の大田、葛飾、港、杉並、目黒 5 区の設立をもって、67 年の歳月をかけて全区に地区稲門会が整備された。

その初代東京 23 区支部長として平成 15 年から 1 年間、重責を全うすることとなった。早稲田大学の発展と地区稲門会の親睦並びに地域社会の発展に寄与する事を基本に支部運営でまず心掛けた事は各 23 区稲門会の実状に鑑み、意見を聞きつつも対立の構図を生まぬよう極力努力をした。全 23 区が整備されたとはいえ、再生大田稲門会が開花した事で本当の足並みが揃う事となり、大学校友会に全力をあげて貢献出来る体制になった。平成 15 年 10 月、毎年ホームカミングディとして全校友を早稲田大学に迎える稲門祭に於いて、東京 23 区支部は大隈庭園で遺憾なくその成果が具現化されたと思う。23 区稲門会の努力に深く感謝したい。また平成 16 年 2 月 18 日に第 1 回東京 23 区支部大会が開催され、稲門祭と支部大会を 2 本柱とした骨格が固まったと自負している。

なお、東京 23 区支部の骨格をなす支部規則制定に大きく貢献された江東稲門会の小泉宗孝氏および東京 23 区支部初代幹事長として支部運営に多大な努力をされた世田谷稲門会の鈴木宏治氏に深くお礼を申し上げたい。

長期展望すると今後の高齢化と少子化は大学運営の在り方と校友の生き方に大いなる影響を齎らすゆえに支部並び地区稲門会の役割の大きさを考えざるを得ない。

早稲田大学と東京都 23 区稲門会の益々のご発展を祈念して、東京都 23 区支部年史の発刊を心よりお祝い申し上げます。



校友会は、同門の親睦を第一義とするものでありますが、大学の未来を想うとき、又、稲門会の未来を想うとき何か為すべきことがあるように想えます。

我ら仲間は日本中に、全世界に散じています。その中核的存在として「東京都 23 区支部」はありたいと思うのです。

現在、「東京都 23 区支部」は在住数で 10 万名を超える卒業生がいます。校友会最大の組織です。黄金期の稲穂は、我らが早稲田大学の象徴です。年々歳々変わることなく、日本人のかけがえのない命の糧として育つ稲と同時に、早稲田の門からは毎年多くの有為の人材が、日本の社会に巣立っていきました。

我々は一束の稲穂にすぎません。

しかし、見渡す限りの黄金の波になれば、日本中を潤すことになるのです。

我が母校の発展は心からの願いであり誇りです。

私は平成 16 年 5 月から第 10 代の「東京都 23 区支部長」を 1 年間、仰せつかり、その重責に身の縮まる思いをいたしました。

まず、最大の行事となる「東京都 23 区支部大会」の開催です。より多くの会員が関心を持って参加してみようと思う企画です。この、企画を実現することがありうるのか、多くの了解をもらえるのか。魅力ある講演者は。その折衝を誰がするのか。又、会場は。参加費は。講演料は。懇親会場は。そして、何名の参加者か。懇親会のイベントは。パーティー費用は。総長、校友会代表の日程は。そして各稲門会幹事長に案内の依頼、出席人数の要請。会費の振込。当日の受付。式次第は。125 周年への寄付金は。等々……。

その結果、中曽根康弘元総理大臣に 1 時間の講演をお願いに直接事務所を訪問した。面識はないのに直接ドアを叩いた。検討結果の末、OK をもらった。東京都 23 区支部は早稲田卒業生が 10 万名の生存会員のいる組織ですと伝えたところ、10 万名とはと驚かれ、なお且つ早稲田には優秀な人が多い、尊敬する大学です。と述べられた。そのようなことがあって、まず第一難門はクリアーできた。このような状況で懸案事項は皆さんの協力で順次解決できた。

懇親会では早稲田出身のコラス「ボニージャックス」に出演してもらった。これは商学部昭和 33 年卒で、ボニージャックスのメンバーであり同期の西脇久夫にお願いして心良く OK してもらった。そして、白井総長も学生時代「グリークラブ」に在籍とのこと。「白いブランコ」をご一緒に歌ってもらったりして良い雰囲気懇親会になりました。125 周年寄付も皆さんの

ご協力で50万円寄贈でき、支部大会も盛りあがって無事終了できました。総勢参加者は400名でした。

諸兄の叡智の助けを借りて、任期を全うできました。感謝の一言です。

ただ一つ、残念だったのは懇親会に女優の吉永小百合さんの出席を書面をお願いしたのですが、諸々の理由で電話一本で断られました。又、10周年を迎え、歴代10人の23区支部長にお集まりいただき歓談できる機会を得られたのも思い出の一頁でした。

母校への協力というのは、ほとんどがボランティアであり、その協力した報酬は「良くやったぞ」という自分自身が感ずる「満足感」が報酬であろうかと思えます。「満足感」か「不満足感」は我々自身の心にあると思います。集まり散じてまた集まって「東京都23区支部」が楽しい、有意義で価値ある会となりますよう心から念じています。



東京都23区支部

第三代支部長

大久保 信隆

(東京荒川稲門会会長)

平成16年4月6日の第1ブロック会議で満場一致で副支部長に推され、真仁田さんと2人で手塚支部長を支えてゆく事になりました。翌年の4月、いよいよ支部長区を担当する事になり、

- ① 大学・校友会との意思の疎通を図り、
- ② 幹事会・ブロック会議・3委員会で徹底論議を尽くし、
- ③ 稲門祭に協力し、
- ④ 会員が参加したくなる支部大会を企画すべくスタートしました。

5月の臨時総会で漸く清水幹事長が承認され、8月に口元局長と、9月には校友会3常任幹事と懇談の場を持ちました。

10月の臨時総会では、稲門祭のスケジュールと役割を承認され、同時に3月の支部大会をエクステンションセンターとの共催で行うことも決定いただきました。

1月の臨時総会においては、福田常任幹事にご出席を頂き、質疑応答を行ない、稲門祭収支と支部大会詳細も報告できました。

平成18年2月には、口元局長より2006及び2007年の稲門祭への協力依頼のご依頼も頂きました。そして3月22日(水)、大隈講堂クロージングイベントとして、田原総一郎特命教授の講演と早大交響楽団の演奏を450名の会員と共に堪能し、第2部ガーデンハウス懇親会でも320名と一緒に早大チンドン研究会の妙技を楽しみました。

4月4日からは、大田稲門会との引継ぎを何度も行なって、18日の定時総会で新旧交代しました。校友会事務局の皆様には、大変お世話になり厚く御礼を申し上げます。



東京 23 区稲門会連合から 東京都 23 区支部への軌跡

創 生 期

1993 年 10 月 24 日

都内に 16 稲門会が設立されて相互の交流の機運が生まれ、渋谷、城西、文京で代表者会議開催の呼びかけを準備していた。時を同じくして校友会本部から都内稲門会連合結成の打診があり校友大会当日、大隈会館にて正式に連合会の設立に向け前記 3 稲門会が主体となって行動する事を確認。

1994 年 6 月 8 日

23 区稲門会連絡会開催

於 旧大隈会館

出席 渋谷、城西、文京、江戸川、豊島 計 8 名

目的 各稲門会の連絡会

1994 年 7 月 26 日

東京 23 区稲門会「設立の集い」

「幹事稲門会 渋谷」

於 大隈会館

出席 世田谷・江東・北・浅草・渋谷・豊島・文京・

江戸川・城西・墨田・品川・練馬・銀座・板橋

出席者 34 名

名称 23 区稲門会

目的 稲門会相互交流の援助・緩やかな連合形式

役員 3 稲門会をグループとし持回り。任期 1 年

1995 年 3 月～4 月

代表者会議を開催し 5 月に連合大会の開催を決定するも、担当稲門会新宿稲門会大西会長の突然の死去により中止となる。

名称 東京 23 区稲門会連合に変更

1996 年 4 月 16 日

大会事務局打合せ

1996 年 5 月 14 日

大会事務局打合せ

招待者、大会運営次第の打合せ

1996 年 5 月 17 日

東京 23 区稲門会連合結成大会

「幹事稲門会 新宿」

於 リーガロイヤルホテル早稲田

出席者 17 稲門会 約 100 名

1997 年 2 月 27 日

稲門会連合代表者会議

連合会規約制定

代表者会の構成 会長と会長指名者

会長の選出 ブロック制から各区の輪番制に変更

1997 年 6 月 30 日

第 2 回東京 23 区稲門会連合大会

「幹事稲門会 文京」

於 リーガロイヤルホテル早稲田

出席者 17 稲門会

講師 奥島総長

1997 年 8 月 4 日

稲門会連合代表者会議

於 熱海 早稲田大学双柿舎

出席 浅草、北、江東、渋谷、世田谷、練馬、豊島、文京 計 8 稲門会 18 名

決定事項 連合会年会費 1 万円

討議事項

会長の選出方法についてブロック制に戻す事を討議したが、現状の輪番を維持する事となった。

席上、次期幹事稲門会（豊島）より校友の大多数を抱える都内稲門会は単なる同窓会の存在に留まることなく大学の発展に寄与できる存在となるべきであり、そのためにはどうあるべきかとの提案があったが、当面は緩やかな連合を維持するが今後の課題として検討を重ねる事とした。

1997 年 10 月 30 日

稲門会連合組織改革準備委員会

「幹事稲門会 豊島」

出席者 5 稲門会

1998 年 1 月 22 日

第 2 回組織改革準備委員会

稲門会連合幹事長（豊島）より都内稲門会の現状と校友会の考える 3 ブロック案について説明され

たが、当面の課題として未組織区の存在解消を中心に検討した。

参考資料 連合三田会組織・構成

1998 年 3 月 3 日

稲門会連合幹事長会議

出席 江戸川、江東、墨田、銀座、中央、板橋、北、千代田、豊島、中野、練馬、文京、渋谷、世田谷

計 14 稲門会 19 名

了承事項

これまでの各区稲門会組織の上に所謂「屋上屋を架す」とならないよう運営した緩やかな連合を続けるべきか、支部組織を意識した改革を行なうべきかを討議した。

体制については大学評議員の選出枠を考慮した校友会提案の東京 3 ブロック案を検討。

結果、緩やかな連合より一歩前進する事を了承、未組織六区の組織化支援を優先するために、連合会長豊島稲門会の任期を平成 11 年 3 月まで延長する事とし、7 月の会長・代表者会で幹事会の合意事項の承認を得る事とした。

会計年度 7 月～6 月を 4 月～3 月に変更。

1998 年 7 月 23 日

東京 23 区稲門会連合・会長代表者会議

屋形船に、15 稲門会（浅草・板橋・江戸川・北・渋谷・墨田・世田谷・中央・千代田・中野・練馬・文京・豊島）の 47 名と、奥島総長、中嶋代表幹事ほか 8 名参加。奥島総長の再選を祝し、また 23 区すべての稲門会結集が討議された。

東京 23 区勢揃い

1999 年 2 月 2 日

稲門会連合代表者会議

構成稲門会基本要件案の承認

- ① 相互の親睦と大学の発展並びに地域社会の発展に寄与する。
- ② 特定個人又は団体の利害に関わる恐れのある活動は行なわない。
- ③ 稲門会は 1 区 1 稲門会とし名称は各区を代表するに相応しい名称とする。

1999 年 2 月 19 日

第 3 回東京 23 区稲門会連合大会

於 リーガロイヤルホテル早稲田

出席者 23 稲門会 321 名

奥島総長の講演と、経済テーマのパネルトーク

銀座稲門会が中央に、浅草が台東に改称され、中野は独自で立ち上がった。足立、目黒、杉並、港、葛飾に赴き、在住者と協力し稲門会設立に至った。葛飾の時には、江戸川の協力を頂いた。城南校友会のみ、大田への改組が遅れたまま、名称を大田稲門会としての参加。

ともあれ、ついに 23 区勢揃いとなる。

1999 年 8 月 23 日

稲門会連合代表者会議

「幹事稲門会 江戸川」

校友大会での連合の PR を提案

1999 年 10 月 24 日

校友大会

稲門会連合の PR コーナーを出店。

2000 年 1 月 24 日

稲門会会長会

出席者 20 稲門会

2000 年 2 月 18 日

第 4 回東京 23 区稲門会連合大会

於 リーガロイヤルホテル早稲田

出席者 22 稲門会 260 名

2000 年 4 月 13 日

稲門会連合代表者会議

「幹事稲門会 世田谷」

出席者 19 稲門会

校友大会当日の連合大会の開催と校友大会(稲門祭)への行事参加について検討を提案。

2000 年 6 月 13 日

稲門会担当者会議

出席者 17 稲門会

大学より 125 周年記念募金への協力依頼。

校友大会での 23 区の積極的な支援・協力として大隈庭園に於けるイベント・アトラクションの開催が提案され決議された。

2000 年 10 月 22 日

「東京 23 区稲門会連合の集い」

校友大会の当日、大隈庭園において第五回連合大会

にかえて開催。

目的 東京 23 区稲門会の広報・新会員募集

催し物 5 稲門会

イベント 2 稲門会

その他の稲門会は会場整理、環境対策などに協力。会場の共通運営経費は 23 区で負担、連合幹事稲門会は校友の酒造会社の協力を得て、銘酒試飲会を担当、試飲参加者の寄付と催し物担当区の

収益を創立 125 周年募金に当てる事とした。

2001 年 4 月 20 日

稲門会連合代表者会議

「幹事稲門会 北」

連合大会の中止と校友大会での校友のつどいの継続を提案

2001 年 9 月 13 日

臨時稲門会連合代表者会議

副会長選出と稲門祭企画を承認

2001 年 10 月 21 日

稲門祭参加

「東京 23 区稲門会連合の集い」として

2002 年 2 月 22 日

稲門会連合代表者会議

連合会長区の推薦する常任幹事 8 名と組織・事業・広報等の分科会設置を承認。各区幹事は各分科会に所属。

2002 年 4 月 26 日

稲門会連合代表者会議

「幹事稲門会 江東」

常任幹事会の構成に連合幹事長を加える。

2002 年 5 月 20 日

常任幹事会

稲門祭庭園の参加等分科会議題の審議。審議結果は議事録の配布と共に広報分科会よりニュースレターとして各区に配布される。

2002 年 6 月 30 日

稲門会連合代表者会議

稲門祭庭園の参加を承認

2002 年 9 月 13 日

稲門会連合代表者会議

奥島総長の退任を期に連合大会の開催を承認

2002 年 9 月 19 日

第 4 回東京 23 区稲門会連合大会

於 リーガロイヤルホテル早稲田

奥島総長退任慰労 125 募金贈呈

出席者 22 稲門会 230 名

2002 年 10 月 5 日

早稲田大学校友会秋季代議員会

東京都に支部の設置を承認

2002 年 10 月 20 日

稲門祭参加

「東京 23 区稲門会連合の集い」

催し物 8 稲門会

イベント 2 稲門会

東京都 23 区支部誕生

2003 年 2 月 18 日

稲門会連合代表者会議

支部会則の審議

常任幹事の選出をブロックの互選に変更

2003 年 3 月 28 日

東京 23 区支部発足総会

支部会則と役員人事の承認

2003 年 6 月 30 日

東京 23 区支部総会

「支部担当区 目黒」

稲門祭参加承認

支部大会開催承認 白井新総長紹介の為

2003 年 10 月 19 日

稲門祭参加 「校友のつどい」

催し物 8 稲門会

イベント 4 稲門会

東京稲門女性ネットワークとの共催

会場の清掃に環境ロドリゲスの協力を得た。

2004 年 2 月 18 日

第 1 回東京 23 区支部大会

白井新総長紹介

稲門祭活動収益から 125 募金贈呈

出席者 23 稲門会 263 名

企画内容（時の話題の講師による講演とバンド演奏）
の充実により、各区に出席者の確保を強制する
事なしに目標達成できた。

2004 年 3 月 16 日

常任委員会

次期支部担当区（千代田）より会の名称を東京都
23 区支部とする事、および幹事会の強化による常任
幹事方式の廃止と支部幹事長の支部長指名方式に変更
が提案される。

2004 年 4 月 26 日

東京都 23 区支部総会

「支部担当区 千代田」

支部幹事 23 名の選出

2004 年 9 月 7 日

東京都 23 区支部臨時総会

総会以降、会長会・幹事会において千代田提案を審議
の結果、幹事長は現行の支部規約による幹事の互選、各
委員会の責任者は委員会の互選とする事で承認される。

2004 年 10 月 24 日

稲門祭参加

東京都 23 区稲門会連合の集い

催し物 8 稲門会

イベント 4 稲門会

2005 年 2 月 16 日

第 2 回東京都 23 区支部大会

講演 中曽根康弘元総理

参加者 23 稲門会 360 名

2005 年 4 月 20 日

校友会幹部・支部打合せ

新支部幹部と校友会常任幹事との懇談

2005 年 4 月 27 日

東京都 23 区支部総会

「支部担当区 荒川」

支部活動方針、役員人事、予算、規約改定、年間スケ
ジュール等を承認

2005 年 5 月 17 日

東京都 23 区支部臨時総会

幹事会の互選による支部幹事長承認

幹事全員を組織・事業・広報の 3 委員会に登録、幹事
会の運営補助として随時 3 ブロック内で懇親会を開催
し幹事会議題の徹底を図る事とした。

2005 年 8 月 18 日

支部幹事と校友会常任幹事との懇談会

幹事会で提案された校友による大学施設の利用などに
ついて懇談

2005 年 9 月 28 日

支部幹事と校友会常任幹事との懇談会

校友会代表幹事の交代と支部体制についての意見交換

2005 年 10 月 18 日

東京都 23 区支部臨時総会

稲門祭庭園における 23 区支部の活動についての報
告と支部大会開催について大学エクステンションセン
ターの活用について報告される。

2005 年 10 月 23 日

稲門祭参加 「校友のつどい」

催し物 13 稲門会

イベント 2 稲門会

従来の TWN との共催にぐわえ神奈川県支部が物産
販売で協力イベントは現役の活動紹介の場として活用

2006 年 2 月 3 日

稲門祭開催方法に関し校友課より打診

従来、稲門祭は首都圏の支部が運営主体を交代で担
当してきたが、平成 19 年度は大学の創立 125 周年記
念の年にあたるため 1 都 3 県支部が協力して担当する
よう要請される。

2006 年 3 月 22 日

第 3 回東京都 23 区支部大会

講演 田原早稲田大学特命教授

参加者 23 稲門会 450 名

特記事項

大隈講堂で開催、大学エクステンションセンターとの
共催とし開催経費の縮減に努める。
早稲田大学交響楽団出演 会費 5,000 円

2006 年 4 月 18 日

第 3 回東京都 23 区支部総会

「支部担当区 大田」

役員人事、予算、3 委員会継続

2006 年 5 月 8 日

新・旧支部幹事と校友会代表幹事との懇談

東京都23区支部稲門会紹介第1ブロック

足立稲門会

沿革 1998年11月27日設立

豊島稲門会の協力のもと、8回の設立準備委員会の開催を経て設立。

初代会長 鈴木敏男（現名誉会長）

会長 柳橋元八

特色 1943卒（専門・法律）の方から2006年卒の方までの220名の会員。

そのうち女性会員27名、平成会員28名、年会費納入者は約150名。

* 年1回の総会・忘年会

* 年7回の幹事会 * 年2回の会報発行

* 年2回の足立の親睦四大学（慶應三田会、日大櫻門会、立教会）とのゴルフ会、講演会、麻雀会を通じての懇親会。

* 足立在住、在勤の会員相互の親睦・交流を通じて早稲田大学への協力と足立区への文化、教育の貢献に努めています。

部会 稲吹（スポーツ吹き矢）、悠遊（野球・ラグビー・駅伝観戦）、ゴルフ、グルメ、囲碁、旅行、カラオケ、麻雀、平成会、サンローゼ会

連絡先 〒121-0011 足立区中央本町4-12-10

幹事長 白石茂子 事務局長 島守捷弘

Tel 3848-3005 E-mail madame.moco@nifty.com



東京荒川稲門会

沿革 1988年 都内23区中7番目に創立

2005年度東京都23区支部長区担当

歴代会長は初代宮永正己氏が14年間で2代大久保信隆氏と交代。

主役員 会長 大久保信隆

副会長 桧垣、中山、西川、志村

幹事長 清水

副幹事長 小林、小太刀

事務局長 阿部

活動 6月総会。年4回役員会。地区別懇談会。近隣交流会。

入会金不要。名簿550人。

年会費3,000円、支払会員90名。

連絡先 〒116-0013 荒川区西日暮里5-24-2

(株)パワーズアンリミテッド東京支店内

Tel 03-3803-9291 Fax 03-3803-9290

E-mail abe-h@powersunlimited.co.jp

江戸川稲門会

沿革 1932年、当会の前身、南葛校友会創立。会長石谷伝兵衛氏。戦時中一時休会を経て、1953年3月8日、江戸川稲門会として再発足。会長石谷伝兵衛氏。

主役員 会長 池田 亮

副会長 塩浦、伊藤、湯田、宮崎、清水

幹事長 島矢

事務局長 織田

活動 地域校友本位の、親睦と情報交換を主目的として活動しています。総会、定例会、駅前ひとり店主（飲み会、随時）、各部会などあり、今後希望により活動範囲を広げていく予定です。

連絡先 〒134-0013 江戸川区江戸川4-23 織田方

Tel 03-5661-6380 Fax 03-5661-6380

E-mail divar@nifty.com

URL <http://members.edogawa.home.ne.jp/>

葛飾稲門会

沿革 1999年1月設立

歴代会長：野中信男、谷口満男、小林弘和、武者英之

主役員 会長 武者英之

副会長 石橋、矢頭、亀山

幹事長 田辺 会計幹事 本間、増田

常任幹事 鈴木(孝)、安藤

活動 総会：6月最終土曜日

定例交流会：原則毎月第2水曜日

その他：平和祈念碑献花式（8/15）

すき焼き、暑気払い（9/上旬）、「かつしか

環境緑化フェア」出店参加（6月第2土曜）

名簿：2,000名、会費納入100名

年会費：3,000円

連絡先 〒124-0013 葛飾区東立石1-21-3

三協物産株式会社 武者英之気付

Tel 090-5788-5831 Fax 03-3696-0599

E-mail musha@asagi.waseda.jp

東京都23区支部稲門会紹介第1ブロック

江東稲門会

沿革 江東地区は故渡辺達三氏を会長とした会合があったが1981年活動を休止。
再開は当時の幹事であった室橋昭（現江東区長）が小泉宗孝（現会長）桜井大三（現副会長）鯨岡俊司（現副会長）中村達男（現事務局長）等を集め再開準備を行い平成6年再開。

主役員 会長：小泉宗孝 副会長：桜井大三、鯨岡俊司、伊藤哲子、酒井誠、天野文夫、赤石正次
幹事長：榎本雄一 副幹事長：森田寛
事務局長：中村達男

活動 再開後は総会後のイベントをオープンにしてチャリティー音楽会、講演会など地域社会に貢献（寄付）、しかも家族等多くの参加者が楽しめる活動をしてきた。部会はゴルフ、グルメツアーなど特に後者は毎年、“歴史とグルメ”の楽しいバスツアー開催。

会員 正会員 100名 年会費 3,000円

連絡先 〒136-0071 江東区亀戸 2-17-7 (株)日冠
Tel 03-3682-3518
E-mail wg-estate@well-life.co.jp



墨田稲門会

沿革 1964年9月設立
歴代会長：岡本亀吉、山田四郎、網中毅一、（代行）鈴木敏、岡本昌三、立岡幸夫

主役員 会長 立岡幸夫
幹事長 山口幸一

会員 区内在住・在勤および縁故者有志の校友 1,200名（維持費納入者 100名）

活動 4月 早慶レガッタ応援
5月～6月 定時総会
原則として会報年一回発行（既刊第22号）
その他、暑気払い、賀詞交歓会、グルメの会、旅行会など状況に応じて開催

連絡先 〒130-0021 墨田区緑 2-15-19
(株)山口商店 気付 山口幸一
Tel 03-3632-2838 Fax 03-3631-2238

台東稲門会

沿革 1987年浅草稲門会を創立。1999年台東稲門会へ改称。初代会長松澤欣一に次ぎ小林孝夫を経て2006年三代目会長に岩崎 隆が就任。

主役員 会長 岩崎 隆
副会長 篠田 忠、安藤一夫、住吉忠男、谷 利明、齋藤興平、徳茂浩司、島村正徳、田中敏雄
幹事長 高橋成行
副幹事長 永見伸之

活動 (4月) 早慶レガッタ応援（祝勝会開催）
(8月) 暑気払い (9月) 親睦ゴルフ会
(11月) 総会・懇親会
幹事会：各月毎開催、出席 20名前後

会員 登録会員 450名 会費納入者 150名

年会費 3,000円 入会金不要

連絡先 〒111-0032 台東区浅草 1-28-3
(株)コマチセンター内 岩崎
Tel 03-3843-9101 Fax 03-3843-9595
E-mail kmcenter@blue.ocn.ne.jp

中央稲門会

沿革 従来、中央区にあった銀座稲門会、築地校友の会、職域単位の会などを本に、1998年中央稲門会が設立された。
初代会長には、銀座稲門会の故井田博基が就任し、続いて藤井和、緑野恵司を経て2006年現会長に吉田誠男が就任した。

主役員 (会長) 吉田誠男
(副会長) 渡邊幸生、福島みどり、桜井次郎太
(幹事長) 村田豊
(事務局長) 鹿川賢吾
(会計) 橋本榮一
(監査) 吉田修司、白坂亜紀

活動 (毎月) 懇親会 (1月) 新年会 (5月) 総会 (8月) 暑気払い (12月) 忘年会 幹事会 (各月開催全役員出席) 登録会員 180人
年会費 3,000円 入会金 不要 連絡先

事務局 〒104-0032 中央区八丁堀 3-2-2-802
建築設計事務所
ワイプラス オフィス アーキテクト内 村田
Tel・Fax 03-3555-6780
E-mail yutakam@h3.dion.ne.jp

東京都23区支部稲門会紹介第2ブロック

板橋稲門会

沿革 1986年6月設立、初代会長に小谷鋈治氏（サンケン電機代表）が就任。
2代目会長、瀬田虎太郎氏

主役員 会長 飯田金廣
副会長 小山、河野、小野沢、関口、富沢、渡辺、佐々木、竹内
幹事長 庭野
常任幹事 森、田上、鷹薮、村上、外10名

活動 6月総会。年4回役員会、ゴルフ、ウォーキングは春秋年2回、囲碁は毎月1回、その他早慶戦観戦、花火鑑賞随時
入会金不要、名簿約450名
年会費 3,000円

連絡先 〒174-0075 板橋区桜川1-5-4
日光畜産(株) 庭野恒男
Tel 03-3931-1836 Fax 03-3559-4129
E-mail fwjd3469@mb.infoweb.ne.jp

新宿稲門会

沿革 1995年1月、それ以前の城西校友会改め新宿稲門会となる。1995年、東京23区稲門会連合の第2代会長に、会長の大西鉄之祐早稲田大学名誉教授就任。
新宿稲門会となり、初代会長は染谷恭次郎、第2代は永山武夫・早稲田大学名誉教授が会長となる。2005年永山会長退任の後、現在、会長不在のまま活動継続。

主役員 (会長) 未定
(副会長) 藤森・久保・野口・小林・富永
(幹事長) 小野木
(副幹事長) 峯野・宮崎 (事務局長) 小林

活動 総会 10月 役員会 月1回 他臨時部活動として、観劇会・スポーツ観戦・落語鑑賞会(楽落会と称す)・囲碁・将棋クラブ・ゴルフ部会など
入会金不要 年会費 3,000円 名簿 360名 実質会費納入 280名 (17年度)

連絡先 事務局：〒169-0072 新宿区大久保2-9-17 小林方
Tel・Fax 03-3208-8353
E-mail yasu_koba@fuji.waseda.jp



北稲門会

沿革 1994年4月、故小山宙丸第13代総長の在任中に設立。現在会長は飯野嘉一郎。

主役員 会長 飯野嘉一郎
副会長 岩本 誠、小池智磨、元田義永、志水一夫、樋口万丈、越野充博
幹事長 齋藤慎一
常任幹事 野部 浩、児玉英樹、伊与部輝雄、田中榮志

活動 3月 講演会 7月 定時総会
9月 グルメ会
10月 北区民祭り参加
11月 ゴルフ会 12月 忘年会
毎月第2・4土曜日 囲碁月例会

年会費 3,000円

事務局 〒114-0002 北区王子4-22-9
越野建設(株)内 担当 中村
Tel 03-3913-4511 Fax 03-3913-4723

千代田稲門会

沿革 1997年、23区中17番目に設立。
2004年度23区支部長区。
歴代会長は初代稲葉稲太郎氏、現会長は2代目手塚善雄氏。

主役員 (会長) 手塚善雄
(顧問) 青木半治、木村茂、西郷之厚、海部俊樹
(参与) 中島昌信、小池唯夫、矢谷憲一
(副会長) 増田進、茂澤杲、掛川高行、本多当一郎、保志場宏、青柳乾太郎
(幹事長) 溝本智之
(監査役) 福井忠雄、大曾根茂

活動 総会(5月) 幹事会(随時) 部会(ゴルフ・カメラ・グルメ・旅行)
年会費 5,000円 名簿 230人

連絡先 事務局 〒101-0037
千代田区神田西福田町5 昭和部品ビル内
Tel 03-3254-5059 Fax 03-3256-1193

東京都23区支部稲門会紹介第2ブロック

豊島稲門会

沿革 1990年6月16日設立。小松原和夫初代会長が東京23区稲門会連合の会長として足立、目黒、港、葛飾、杉並の稲門会設立に尽力し、99年2月ついに23区勢揃いの連合大会を開催。10年を経て浅原英明2代会長就任。地域校友の親睦と交流、大学への支援、協力、地域社会への貢献を目的に組織の活性と強化に努めている。

主役員 会長 浅原英明
副会長 鈴木修、清水泰子、野崎敬二
幹事長 岡修爾 事務局長 石川宜司

活動 新春懇親会 2月第1金曜日
総会 6月第1金曜日
幹事会 原則として毎月1回
委員会 広報、稲門塾、ホームページ、ゴルフ、旅行、楽遊会、二本会、四水会、囲碁。

年会費 5,000円

連絡先 〒170-0005 豊島区南大塚 3-20-12

(株)アート・パル工房 野崎 nozaki@art-pal.net
Tel 03-5396-1121 Fax 03-5396-1123

中野稲門会

沿革 1998年7月5日(初代会長 谷 資信)

主役員 会長 片平進一
副会長 井上敬三郎、津田信一、織田知明、山本知由、藤本るみ子

幹事長 高田宜美

副幹事長 伊丹眞、伊藤毅、篠本京二、萩原博茂

活動 総会、忘年会／新年会、役員会(年三回)、幹事会(随時)

年会費 4,000円(18年度支払会員 200名)

部会 ゴルフ、囲碁、カラオケ、絵画、音楽(演奏含む)、知の技術研究、広報(会報誌「さざんかの道」の編集)、スポーツ観戦、歩こう、ナイス・ライフ

部会同士の連携を図るため部会長懇談会新設、各部会とも杉並稲門会と交流

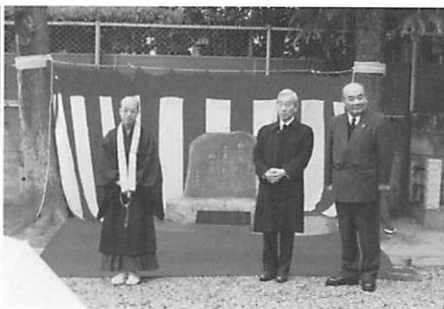
連絡先 事務局：〒164-0011 中野区中央 5-39-11

(株)新日警内 Tel 03-3384-1400

幹事長：〒164-0001 中野区中野 3-30-12

高田宜美 Tel 03-3383-0962

URL <http://wnakano.blog76.fc2.com>



練馬稲門会

沿革 1978年3月18日設立。荻野 優(初代会長)を中心に、約1年の準備期間を経て、東京で三番目の会を発足させた。そして10周年、20周年を経て来年(2008年)創立30周年を迎える事となった。

15周年を過ぎた頃より、薄まってきた会員の意識を集約すべく、縮小し無関心派を省き、趣味を活かした、サークル活動の輪を広げ、会員の数も、その中から増やして、現在約300名の有効会員で活性化している。また、部活動で、奥様(夫人)のサークル参加を奨励し、準会員制度として、約25名の参加で活況を呈している。

主役員 会長 荻野隆義

活動 ゴルフ、歴史ハイキング、旅行、麻雀、囲碁、テニス、グルメ、エッセイを書く会、カラオケ、アジア文化研究会、観劇会

連絡先 〒176-0014 練馬区豊玉南 3-6-2

第2春日ビル 国産自動車交通内

Tel 03-3994-8212 Fax 03-3994-8219

文京稲門会

沿革 1992年6月18日設立。1990年12月発足世話人会開催。初代会長に星川長七早稲田大学名誉教授を推戴し、1992年に都内16番目の稲門会として発足。設立総会の開催にあたり、都内7稲門会の会長にご臨席を頂く。この事が1994年の稲門会連合の設立に結びついた。

主役員 会長 信井文夫

副会長 島田燐子、河合早苗、河西誠、石田照雄

活動 文京稲門会は区内校友親睦のみに留まらず、早稲田大学・各区稲門会とも積極的に連携を図り、区内在住、在勤の校友の親睦・啓発に努めている。

部会

常設 ゴルフ、囲碁、カラオケ、麻雀、将棋

臨時 WWNB(女性部会)、銘酒、旅行

連絡先 事務局：〒113-0024 文京区西片 2-8-14

細谷方 Tel・Fax 03-3812-1581

東京都23区支部稲門会紹介第3ブロック

大田稲門会

沿革 1999年3月30日設立。それまでの城南地域校友会を発展的に解消し設立。対内・外ともに限られた人達のものであった体制を2003年11月の定時総会で、松本会長を中心に明るく開かれた大田稲門会を目指して改組、現在の基礎が創られた。

主役員 会 長 松本常男

幹事長 島田雅雄 事務局長 中川幹雄

活動 定期総会は懇親会と併設し会員主体、新年会は講演会を開催し新会員募集を集中的に。

部会活動 定例会（俳句、囲碁、パソコン）、その他（工場見学、ゴルフ（ボギークラブ）、遺跡・史跡探訪、落語、マージャン、室内楽、スポーツ応援、証券研究、異業種交流は年数回開催。）

広報活動 会報（会の主な活動の紹介）、エクスプレス（各部会の報告や予定）、ホームページ・キャンペーン（会紹介と新会員募集）。

現況 会員数250名、但し50歳代までで8割を超え若い世代と女性が少ないのが悩みの種。

抱負 情報の発信基地としての活動が目標。

連絡先 中川幹雄 大田区田園調布2-9-3

Tel・Fax 03-3721-4753



渋谷稲門会

沿革 1982年6月28日設立。都内4番目の稲門会として設立。故菊池泰二郎初代会長は大きな基礎を築かれ、大原基良第2代目会長は会員増強・組織拡大を、長谷川利明第3代会長は親睦8部会に力を入れ、谷澤隆二郎第4代会長は自ら創設した若手中心の未来派・PMグループ活動を活性化させ、現倉田富士男第5代会長は年三回発行の部会報「集り参じて」及び創立20周年記念事業を始めとして会の内外活動を磐石なものとし、今日に至っている。

主役員 会 長 倉田富士男

副会長 松田博、溝部廣道、小西勝、丸山秀一（幹事長兼務）、吉田正志

事務局長 白鳥浩一

会計幹事 福田孝之

連絡先 〒150-0013 渋谷区恵比寿1-13-10（株）白鳥内

Tel 03-3444-2251 Fax 03-3444-2253

E-mail shibuya@waseda-s.jp

URL <http://www.waseda-s.jp/>

杉並稲門会

沿革 1999年11月11日設立。東京都23区の中で一番最後にできた稲門会で初代会長は現会長である根本郁芳氏が就任。設立当初より積極的な活動を開始し、趣味の部会活動とともに、杉並区を地域別に7分割した、ブロック活動を展開。各ブロックに地域世話人を公募し、その地域世話人の下、歴史や健康のためのセミナー、旅行企画、懇親会などオリジナリティに富む活動を行っている。

主役員 会 長 根本郁芳

副会長 岡田徳太郎、山口治夫

幹事長 山田 實

事務局長 石松浩一郎

活動 幹事会 毎月第一土曜日

年会費 3,000円 支払い会員 450名

連絡先 杉並区上荻1-15-1 根本特殊化学(株)内

杉並稲門会事務局

Tel 03-3392-7811 Fax 03-3392-9582

E-mail ishimatsu@nemoto.co.jp

URL <http://w-suginami.net>

品川稲門会

沿革 1990年設立

主役員 会 長 櫻井輝隆

副会長 漆、保科、中澤、飯島、牧、瀬間、小林、吉澤

幹事長 塚田

副幹事長 築館、鈴木（真）、神野、佐々木、鈴木（利）、渡辺（寿）、木伏

監査 中野、渡辺（泰）

活動 総会 9月 定例役員会 原則毎月月末火曜日
その他 地域校友の為の親睦と情報交換を目的に新年会、駅伝応援会、七福神巡りウォーキング、グルメの会、ゴルフ会、ジャズフェスティバル後援等

年会費 2,000円

連絡先 〒141-0022 品川区東五反田5-21-6-1001

塚田法律事務所内

Tel 03-3280-2468 Fax 03-3280-2469

E-mail tsukada.tsukada-law@nifty.com

URL <http://www.shinagawa-waseda.net/>

東京都23区支部稲門会紹介第3ブロック

世田谷稲門会

沿革 1992年1月に早稲田世田谷稲門会として発足した。初代会長には、旧・応援部第6代団長を務めた土倉尚之氏が就任。2代目に寺田勉氏、3代目に黒澤嘉幸氏、4代目に現会長の土倉享一氏が就任し、現在に至る。

主役員 会長 土倉享一
副会長 鈴木宏治、柏良子、川村保夫、
岩上健一、細沢勲、麻生卓司
幹事長 鈴木宏治（兼）
事務局長 川村保夫（兼）

活動（全体活動）総会：毎年5月

納涼会：8月 新年会：1月

（部会活動）10の部会で活発に活動している。

ゴルフ・食べ歩き・スポーツ観戦・釣り・
麻雀・ボウリング・ウォーキング・写真・
囲碁・将棋・カラオケの各部会がある。

（ブロック会）世田谷は広く、会員も多いため、私鉄沿線ごとに7つのブロックに分けて、近隣交流会の場も設けている。

（年会費）3,000円（年会費納入者）380名

連絡先 事務局 川村事務局長方

目黒稲門会

沿革 1998年9月設立準備委発足。1999年1月30日設立総会開催。初代会長 真仁田 勉（S28年法卒）。2004年7月11日第5回定時総会で2代目会長 加藤榮護（S31年理工卒）就任。

主役員 会長 加藤榮護
副会長 市瀬達夫、井村正陽、海沼美智子、
大野利幸、大山高明、横山 大、
都築秀行、保井正、八幡和三郎、
渡邊三郎

幹事長 浅海敏之 副幹事長 土川俊雄

事務局長 吉田博行

活動 総会7月、新年会1月、役員会毎月第1金曜
部会活動 囲碁、ウォーキング、カラオケ、グルメ、
ゴルフ、美術歴史鑑賞、麻雀、旅行、よん月
会（飲食会）、目黒若手会、水と戯れる会

会費 入会金なし、年会費 年額5,000円

会員数 登録会員160名（実質会員153名）

事務局 〒153-0053 目黒区五本木2-47-5 吉田方

Tel 03-3713-2096 Fax 03-3713-2124

<http://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda>

E-mail meguro-tomonkai@nifty.com



港稲門会

沿革 1999年1月12日の設立総会により港稲門会は設立されました。初代会長は土屋喜一氏（早稲田大学退任後名誉教授）で、2003年5月に2期4年の任期満了により退任。2代目会長に安藤恵美子氏が就任。

主役員 会長 安藤恵美子
副会長 増子泰規、青木宏衛、上松弘明、
塩浜裕夫
幹事長 綿貫洋（幹事は他に16名）
事務局長 康本章守

活動 総会 毎年5月に開催
懇親会 毎年11月に開催
部会 二火会（毎月第2火曜日に開催）
ゴルフ、旅行、食べ歩き、俳句、応援、異業
種交流、会報（年5回発行）、広報（ホームページ）

会員 162名（平成18年度会費納入済会員）

会費 年3,000円

連絡先 康本方 〒108-0072 港区白金6-16-20-806

Tel 090-8315-1566 Fax 03-3350-6267

E-mail yasumoto@msg.biglobe.ne.jp



23 区稲門会・23 区支部と、
校友会（本部）のこと

校友会事業副委員長・125 特別事業委員
（豊島稲門会副会長） 野 崎 敬 二

現在、東京都 23 区に稲門会があり、東京都 23 区支部となっています。連合の時代を経て、支部になった訳ですが、一都 3 県の近隣支部と比較しながら問題点、課題を提起させて頂きます。

- ① 23 区支部の大きな特徴は、支部長区が 1 年の輪番制ということです。1 年では、支部長・支部として中長期の活動を展開しにくいことが、幾度と無く語られていながら、いざ、会則改正となると、現状維持の一年輪番制から脱皮できないでいます。
- ② もうひとつの大きな特徴が、神奈川県支部や千葉県支部のように本部からの組織強化費が、支部に行くのではなく、23 区の各稲門会に直接、配布されていることです。

支部から本部への提言、改革案、要望というとき支部の役員が、本部の役員であることにより、より直裁に、本部への反映が可能になり、そのことが校友会の発展、大学への寄与、貢献につながると思います。

本部の役員とは、校友会に限って言えば本部幹事 50 名（含む、幹事代表者、常任幹事）となります。

幹事代表者会メンバーに、東京都 23 区支部から役員を送り出すにあたって、思わぬ障害があります。

幹事代表者会の構成は、代表幹事、常任幹事（各委員会委員長）、各委員会副委員長、*首都圏支部（1 都 3 県）代表者の 19 名となっています。

神奈川県支部からは、幹事長が*この資格でメンバーとなっています。ところが東京都 23 区支部の幹事長等はお膝元でいながら、メンバーになっていません。①の、1 年任期のため、不可能なのです。

早稲田大学校友会規則第 17 条、役員の任期は 4 年です。

②は、23 区幹事会では、ほとんど討議されていませんが、近隣他支部からはやや批判的です。支部としての機能に欠けるきらいがあります。

23 区支部の幹事会での討議は、行きつ戻りつしている印象です。理由として、支部幹事の交代により、現在までの経緯に詳しくない場合等ありますし、校友会規則との照合の姿勢に、欠けている面も見受けられます。

23 区支部としても、時間の経過と経験が積み上がっているはずですから、そろそろ支部としての体裁と実体を、近づけていく努力が望まれます。

早稲田大学校友会規則（抜粋）

第 1 章 総則

第 1 条（名称）

本会は、早稲田大学校友会という。

第 2 条（目的）

本会は、会員相互の親睦を厚くし、校友の組織を充実させるとともに、会員と早稲田大学の関係を蜜にし、連携を強化する事で、早稲田大学の事業を援助する。

第 3 条（本部、支部および海外校友会）

本会は、本部を早稲田大学内におき、各道府県および東京都の 23 区と三多摩に支部をおく。又、海外に校友会をおくことができる。

2 地域、職域、職種、学部学科などの卒業生が組織する団体で、届出のあった場合は稲門会として登録する。

3 海外稲門会のうち、国を代表して主にその国の国籍を有する者によって構成される組織を校友会と称する。

4 支部および稲門会に関する事項については、別に規程を持ってこれを定める。

第 4 条（稲門祭および校友大会）

校友相互の親睦をはかるために、年一回、稲門祭を開催する。

2 会長は、本会の目的を遂行するため、必要ある時は校友大会を開催することができる。

第 2 章 会員

第 5 条（会員資格）

本会は、次の会員をもって組織する。

- 一 正会員
- 二 準会員
- 三 父母会員

第 6 条（正会員）

正会員とは、次の各号に該当する者をいう。

- 一 早稲田大学卒業生
- 二 教職員校友
- 三 推薦校友

第 7 条（準会員）

準会員とは、早稲田大学各学部在籍する者をいう。

第 8・9 条省略

第 10 条（推薦校友）

推薦校友とは、人格、識見その他早稲田大学校友として推薦するに足る人物で、代議員会において承認された者をいう。

2 推薦校友に関する事項については、別に規程をもってこれを定める。

第 11 条（会費）

会員は、所定の会費を納入するものとする。

2 会費に関する事項については、別に規程をもってこれを定める。

3 本会は、主として会費を納入した会員に対し、事業を行なう。

第12条（届出）

会員は、その住所、氏名および職業を変更した時は速やかに校友会本部と支部本部もしくは稲門会本部に届け出るものとする。

第13条 省略

第3章 役員

第14条（役員の構成）

本会に、次の役員をおく。

- | | |
|--------|-------|
| 一 会長 | 1人 |
| 二 代表幹事 | 1人 |
| 三 常任幹事 | 若干人 |
| 四 幹事 | 50人以内 |
| 五 会計監事 | 3人以内 |

第15条（役員の職務）

役員の職務は、次のとおりとする。

- 一 会長は会務を統括し、本会を代表する。
- 二 代表幹事は、会長を補佐し、幹事代表者会の決定に基づき、会務を執行しその責任を負う。必要に応じて、常任幹事に会務の執行を分担させることができる。
- 三 常任幹事は代表幹事を補佐する。
- 四 幹事は委員会の委員となる。
- 五 会計監事は、会計を監査する。

第16条（役員の選出方法）

役員は、次の方法により選出する。

- 一 会長は早稲田大学総長が就任する。
- 二 幹事は、会長が代議員会の承認を得て、会員のうちから任命する。
- 三 代表幹事は、会長が代議員会の承認を得て、幹事のうちから任命する。代表幹事に事故あるときは、会長が常任幹事の中から代行者を指名する。
- 四 常任幹事は、代表幹事が、会長の同意を得て、幹事のうちから指名する。
- 五 会計監事は、会長が代議員会の承認を得て、会員のうちから任命する。

第17条（役員の任期）

会長を除く役員の任期は、4年とする。ただし、後任者が決定するまでは引き続きその職務を行なうものとする。

2 補欠者の任期は、前任者の残任期間とする。

第18条（役員の補充）

会長を除く役員に欠員を生じたときは、第16条の規定を準用して補充する。ただし、次の改選期までこれを延期する事ができる。

第4章 代議員及び代議員会

第19条（代議員制）

本会に代議員1200人以内をおく

2 代議員は、本会の最高議決機関である代議員会を組織する。

3 代議員の選出に関する事項については、別に規程をもってこれを定める。

第20条（代議員の職務および決議）

代議員会は、次に掲げる事項について議決する。

- 一 幹事及び代表幹事の承認。
- 二 予算、決算、借入金ならびに重要な資産の取得及び処分に関する事項。
- 三 規則の変更ならびに規程の制定および改廃。
- 四 収益事業に関する重要事項。
- 五 その他この会の運営に関する重要事項。

2 代議員会は、本規則で特に定めのない限り、出席者の過半数をもって決議する。

第21条（代議員会の招集）

代議員会は、会長が、秋季と春季の年2回これを招集する。

2 会長または代議員総数の十分の一以上の代議員が必要と認めたときは、会長が臨時に代議員会を招集することができる。

3 代議員会の議長は、会長が務める。ただし、会長の指示のもとに代表幹事をもって代行させることができる。

4 代議員会は、代議員総数の十分の一以上の代議員の出席がなければ決議する事ができない。ただし、委任状をもって出席とみなすことができる。

第22条 省略

第5章 幹事代表者会および委員会

第23条（幹事代表者会）

本会に幹事代表者会を設ける。幹事代表者会は、次の者をもって構成する。

- 一 代表幹事
- 二 常任幹事
- 三 委員会副委員長
- 四 地方代議員代表（代表幹事指名）

2 幹事代表者会はこの会の会務を決定する。ただし、必要に応じて各委員会に諮問することができる。

3 幹事代表者会は、代表幹事が招集し、その議長となる。

第24条（委員会）

本会に常設委員会を設ける。なお、必要に応じて特別委員会を設けることができる。

- 2 委員会は幹事をもって構成する。
- 3 委員会は、次の各号に定める事項について審議する。又、代表幹事の指揮のもとで、これを執行することができる。

- 一 代表幹事および幹事代表者会からの諮問事項。
- 二 各委員会の所管事項。

4 常設委員会の委員長は、担当の常任幹事とし、委員会の議長となる。ただし、特別委員会の委員長については、代表幹事が指名する。

5 委員会の副委員長は、委員長が指名する。

6 委員会に関するその他の事項については、別に規程をもってこれを定める。（以下省略）

早稲田大学校友会 東京都 23 区支部会則

第 1 章 総則

第 1 条 (名称)

本会の名称は、早稲田大学校友会東京都 23 区支部（以下、支部という。）とする。

第 2 条 (組織)

本会は、東京都 23 区の区毎に一つ設立された区稲門会（以下、区稲門会という。）で組織する。

第 3 条 (目的)

本会は、早稲田大学校友会と区稲門会との間にあって、区稲門会の拡大発展を基本にし、相互の交流親睦を図り、もって早稲田大学の発展に寄与する事を目的とする。

第 4 条 (役員)

本会の事務局は東京 23 区内に置く。

第 2 章 役員

第 5 条

本会に下記の役員を置く。

- | | |
|---------|--------------|
| 1) 支部長 | 1 人 |
| 2) 副支部長 | 2 人 |
| 3) 幹事長 | 1 人 |
| 4) 事務局長 | 1 人 |
| 5) 幹事 | 23 人（幹事長を含む） |
| 6) 監査 | 2 人 |

第 6 条 (役員の職務)

- 1) 支部長は本会を代表し、会務を総理する。
- 2) 副支部長は支部長を補佐し会務を行い、支部長に事故あるときは、その職務を代理し、支部長が欠員の時は、その職務を行う。
- 3) 幹事長は支部長の旨を受けて会の常務を掌理し、事務局を監理する。
- 4) 事務局長は事務局を統括する。
- 5) 幹事は幹事長を補佐し、会の常務を分掌し、委員会を担当する。また、幹事長に事故あるときは、その職務を代理し、幹事長が欠員の時はその職務を行う。
- 6) 監査は会の資産および会計の状況を監理する。
- 7) 監査は他の役員を兼務できない。

第 7 条 (役員の選任)

- 1) 支部長・副支部長及び監査は、幹事会の推薦に基づき総会において選任する。
- 2) 幹事は区稲門会より 1 名を推挙し、総会で選任する。
- 3) 幹事は幹事会を組織し互選により幹事長を選出する。
- 4) 事務局長は、支部長の指名により総会において承認する。

第 8 条 (役員の任期)

- 1) 役員の任期は、就任後第 1 回目の定時総会終結のときまでとする。但し、支部長を除き再

任される事が出来る。

- 2) 役員が任期満了前に退任した場合、その後任として選任された者の任期は、退任した者の任期の残存期間とする。
- 3) 役員が任期満了または辞任により退任した場合、その役員は後任者が就任するまでその職務を行う。

第 9 条 (顧問及び相談役)

- 1) 本会に顧問及び相談役をおくことができる。
- 2) 顧問及び相談役は、支部長が指名し総会において承認する。

第 3 章 総会・幹事会

第 10 条

- 1) 総会は、区稲門会からそれぞれ選出された代表者 2 人をもって構成し、定時総会と臨時総会の 2 種とする。
- 2) 定時総会は、会計年度終了後 2 ヶ月以内に、臨時総会は必要に応じて、支部長がこれを招集する。
- 3) 総会を招集するには、会日より 2 週間前に区稲門会に対してその通知を発しなければならない。ただし、緊急を要する時はその期日を短縮する事が出来る。
- 4) 前項の通知には、会議の日時、場所及び会議の目的である議案の要領を記載しなければならない。
- 5) 議長は、総会で選出する。
- 6) 総会の議決は、出席区 1 票とし過半数で議決する。ただし、可否同数の時は議長が決する。
- 7) 幹事会は幹事長が招集し、分科会の課題・企画その他業務に関する案件を審議し、執行する。

第 4 章 会計

第 11 条 第 11 条本会の財源は、次に掲げるものを以って充てる。

- 1) 会費 (15,000 円)
- 2) 寄付金
- 3) 臨時会費
- 4) その他の収入

第 12 条 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

第 5 章 その他

第 13 条 区稲門会は次の各号に定める事項を本会事務局に届けるものとする。

- 1) 会則
- 2) 会員に関する情報
- 3) 代表者及びその他の役員
- 4) 事務所所在地及び責任者

第 14 条 区稲門会は前条に定める各号に変更あるときは、速やかに本会事務局に届けるものとする。

第 15 条 会則の変更

本会則は、幹事会出席幹事の3分の2以上の同意と、総会の議決を得なければ、これを変更する事が出来ない。

附則

- 1) 本会の発足に先立ち解散した東京23区稲門会連合の一切の資産は、支部が引き継ぐ。
- 2) 副支部長の選出
副支部長は支部長選出ブロック以外の2ブロックより選出し、次期以降支部長を担当する。
- 3) 幹事会は、業務執行に必要な範囲で23区の代表者からなる委員会を設置する事が出来る。
- 4) 幹事は委員会に23区の全てが登録し、複数の委員会に登録する事が出来る。
- 5) 区稲門会代表者とは、会長又は会長指名の区役員をいう。
- 6) 幹事選出にあたっては、下記3ブロック制を活用する。
第1ブロック：足立、荒川、江戸川、葛飾、江東、墨田、台東、中央
第2ブロック：板橋、北、新宿、千代田、豊島、中野、練馬、文京
第3ブロック：大田、渋谷、杉並、品川、世田谷、港、目黒
- 7) 本会則は2003年3月28日より施行する。

会則改定

2004年9月7日一部改定
2005年4月27日一部改定
2007年1月16日一部改定

以上

ひょうたんから駒

—「マニュアル」誕生の背景—

葛飾稲門会会長 武者 英之

2004年度、ちょうどこの「10年史」にも詳されていますが、私は当会代表の「支部幹事」として毎月おこなわれる「支部幹事会」に出席することになりました。

出席して途惑ったのは、やはり「連合体」として10年を超える歴史をもつものであり、すでにそこには「有職故実」が発生していたことです。新参幹事の我々は、その理解のために議論の時間の多くを割かざるをえませんでした。

私は、2006年の5月に支部幹事を退任することとなりましたが、その折に支部の「組織委員会」の席上、今回の「10年史」編纂に労を尽くされた、細谷（文京）、清水（荒川）の両幹事に、「歴史教科書（＝幹事用マニュアル）」の必要性を訴えました。

それがわずか9ヶ月にして、このような「刷り物」として発刊されるようになろうとは、まさに私にとっては「ひょうたんから駒」、両先輩の手際の良さには脱帽しております。



連合・支部歴代役員芳名

連合	会長	所属	幹事長	所属	事務局長	所属	監査	所属
初代	大原 基良	渋谷	信井 文夫	文京	田井 努	城西		
2代	大西鉄之祐 染谷恭次郎	城西 新宿	信井 文夫	文京	田井 努	城西		
3代	信井 文夫	文京			柳原正之介	文京		
4代	小松原和夫	豊島	三木佑二郎	豊島	野崎 敬二	豊島		
5代	高橋 健治	江戸川	宮崎 一郎	江戸川			谷口 満男	葛飾
6代	土倉 享一	世田谷						
7代	飯野嘉一郎	北	志水 一夫	北			前原 祖彦	世田谷
8代	小泉 宗孝	江東	榎本 雄一	江東	中村 達男	江東	志水 一夫	北
支部								
初代	眞仁田 勉	目黒	鈴木 宏治	世田谷	岩崎 正夫	目黒	中村 達男	江東
2代	手塚 善雄	千代田	青柳乾太郎	千代田	溝本 智之	千代田	桜井 輝隆 岩崎 正夫	品川 目黒
3代	大久保信隆	荒川	清水 英男	荒川	阿部 遥	荒川	田口 博康 青柳乾太郎	大田 千代田
4代	松本 常男	大田	渡辺 博右	大田	中川 幹雄	大田	阿部 遥 小松 袈伴	荒川 練馬

2006 年度組織委員

委員長 清水英男 (荒川)

委員 松藤尊文 (足立)

山口幸一 (墨田)

島矢謹爾 (江戸川)

細谷脩身 (文京)

田辺光一 (葛飾)

鈴木宏治 (世田谷)

森田 寛 (江東)

綿貫 洋 (港)

年史編集委員

委員長 清水英男 (荒川)

委員 阿部 遙 (荒川)

野崎敬二 (豊島)

森田 寛 (江東)

渡辺博右 (大田)

中村達男 (江東)

細谷脩身 (文京)

鈴木宏治 (世田谷)

編集後記

(2007・3・30)

編集委員長 東京荒川稲門会

幹事長 清水英男

三寒四温も過ぎ、桜花爛漫から八重桜の季節になりました。

さて、東京都23区支部の10年余に渡る軌跡(今回の10年史)の必要性を第1回組織委員会の提案事項として、M幹事より「支部活動の相互理解と発展を期す」=(幹事ならびに各区稲門会役員用として)ために是非作ってください。お願いします。とアピールがありました。

そこで第3回幹事会(2006・7・18)にて提案し承認をいただき、3回の組織委員会と5回の編集委員会を経て最終幹事会までに脱稿出来ました。紆余曲折、いろんな出来事、様々な意見がありましたが、各幹事会に進捗状況を報告しながら、23区全稲門会初め白井総長、瀬下代表幹事、隣接各支部の皆様よりの協力により無難に完成することが出来ました。誠にありがとうございました。

組織委員・編集委員の皆さんにはあらゆる面での誠心誠意のご協力に対して心から感謝申し上げます。



グローバル ユニバーシティへ

第二の進学



発行人 早稲田大学校友会東京都23区支部